

# 夏休みのなやみ、これで解決!!

7月刊行予定

自由研究って、工作や観察、科学実験のことじゃないの？ そんな固定観念を取り払い、文系研究のノウハウを生かして、低学年から高学年まで、たのしくかんたんに取り組めるアイデアを〈テーマ選びから提出方法まで〉〈家でできることからちょっと遠出のフィールドワークまで〉紹介します。子どもはもちろん、保護者の悩みも一気に解決！自由研究の指導に悩む学校の先生方にもオススメ♡

B5変型・128頁  
本文2色刷・並製  
定価 **1,800円** + 税

01ひみつのまじないをつくろう / 02五七五を、た〜くさんつくる / 03人間以外のものになって、話をつくってみよう / 04ひとつのテーマで集めよう / 05強い思いや願いを詩にしよう / 06「無理問答」をつくってみよう / 07○○○なら○○○○○○○ / 08漢字物語 / 09自分の花押をつくろう / 10家の中の昭和を探そう / 11きょうだいげんかの研究 / 12習字の工夫 / 13足でもできる! / 14テレビコマーシャルの研究 / 15自分流の作法をみだそう / 16自分だけの絵本をつくろう / 17キャラクターをつくろう / 18山の写真を撮ってみよう / 19家の玄関には何がある? / 20神社のひみつ / 21手書き文字やロゴを集める / 22地図をつくろう / 23コンビニやファミレスのレジ言葉 / 24表札を調べてみよう / 25危険地帯をさがせ! / 26駅の写真を撮ってみよう / 27目に見えない仕事を聞き取ろう / 28昭和を探そう / 29ともだちが(も)小さかったころ / 30長生きできる健康法 / 31方言調査 / 32若者語



# 自由

# 研究

## アイデア51

福井 直秀◎著

の調査 / 33卵を調べる1 / 34卵を調べる2 / 35店に屋号あり / 36町の表示板からみえる国際化 / 37街で見つけた“人の顔” / 38笑顔を探そう / 39広告がなければ電車じゃない? / 40バスの車内放送のいろいろ / 41街路樹にくわしくなるう / 42緑日の屋台を調べてみよう / 43コインパーキングの料金比較 / 44ホームセンターのディスプレイ / 45私の町の○景をつくる / 46生まれた日のことを新聞で調べよう / 47「これは?びっくり!!」新聞のおもしろ見出し / 48プロ野球の歴史 / 49新聞の投稿から「名作」を選べ / 50絵本のおもしろさ再発見 / 51女性の仕事の拡大

《研究へのアドバイス》夏休みだからできること / わかりやすいまとめ方 / 危険対策 / 聞き取りのしかた / 研究のためということをはっきりさせよう / ジブン系自由研究のすすめ(おうちのみなさんへ)

親と教師のための  
アドバイスブック

かがわ出版

〒602-8119 京都市上京区堀川通出水西入  
TEL075(432)2868 FAX 075(432)2869

http://www.kamogawa.co.jp  
info@kamogawa.co.jp

注文書

書店印

部数

冊

条件  
●新刊委託

京都・かがわ出版 (FAX 075 - 432 - 2869)

ジブン系自由研究 アイディア51  
— 親と教師のためのアドバイスブック —

福井 直秀◎著

ISBN978-4-7803-0849-5 C6081 Y1800E

【定価】  
本体1800円+税

### 1-3 人間以外のものになって、 話をつくってみよう

夏目漱石は、猫を主人公とした小説『吾輩は猫である』を書きました。これにならって、人間以外を主人公にした物語を書いてみましょう。

主人公は動物でなくてもいいのです。ちゃわん、フライパン、掃除機など、なんでも主人公にできます。

たとえば、フライパンを主人公にすれば、「ぼくはいつもおいしい料理を作っている。ぼくの得意料理はオムレツである。このやわらかな仕上がりは、誰にも負けない。だけど、自分で食べられないのが、残念だ」というふうに書けるでしょう。

道具が主人公の物語をつくるには、その道具の使われ方、便利な点、相手となるもの（フライパンなら卵）とのかかわり方を考えることが大切です。そうすると、道具のほうが入用よりもはたらいていること、人間がいかにものに頼っていて自分ではできないことばかりなことなど、さまざまな話を見つけられることができるでしょう。

ほかにも、「花」「食べ物」「木」など、また、目に見えないもの（「暮さ」「楽しさ」）などを主人公に話をつくってもおもしろいでしょう。



【まよった★アドバイス】  
① 読み聞かせの長さのお話で済ませたら、それだけで十分です。  
② できあがったお話が面白いと思ったら、いくつかのお話をつくって練習集にしましょう。  
③ 言葉をつづけて、おもしろい文章にして読んでみましょう。

### 1-6 「無理問答」をつくってみよう

「休さんが主人公のお話（「一杯話」）のなかにも、無理問答といわれるものがあります。「無理」という言葉には、よく使われる「できない＝ムリ」という意味のほかにも、「筋が通らない、まちがっている」という意味があります。このように「まちがっている」という意味で使われる「無理問答」が、子どもの期ではやった時代があります。

問答ですから、二人の会話のように組み立てられます。「一枚なのにせん（千）べい」とは、これいかに（これっておかしくないですか？）

「一つでもまん（万）じゅう」とは、いかがごとし（こんな罰もあるから、おかしくないんだよ？）

せんべいのせんということばから、一枚なのにせん（千）というのは変だと言うと、一つでもまん（万）＝まんじゅうというのがあるからおかしくないというものです。

ほかにもあります。「一本でもにんじん」はどうでしょう、これは、まず「一本でも、に（二）んじんとは、これいかに？」となりますね。これに対して「一本でも、ご（五）ほうというがごとし」と返せば問答の完成です。このようにして、数をつかった無理問答をつくってみましょう。

「刺さいてもパン（パン）の焼」とは、これいかに？」ならどうでしょうか。「刺さいても、浅草（あさくさ）」といかがごとし？」などつくれます。地名編です。ほかにも、色（新緑、青豆）、動物、植物——などがついている地名がみつかったら、問答づくりまであと一息です。



【まよった★アドバイス】  
① とりあげた題材の種類（たとえば漢字や説話）にまよめます。  
② 言葉をつづけて、おもしろい文章にして読んでみましょう。

#### 著者プロフィール：福井直秀（ふくいなおひで）

京都大学大学院教育学研究科博士課程を出て後に教育学博士。京都大学教育学部助手などを経て京都外国語大学教授。京都大学の全学共通科目「教育学基礎論」「現代教育論」などで、教員が一方的に話す授業ではなく、学生が多様な意見をのべたり自主的な活動をする授業を行ってきた。最近では子どもの作った「笑い」などの研究が中心。日本笑い学会理事・京都支部代表。グループ「ラララ・オペラ」のテノール歌手。

著書に『柳田国男—社会改革と教育思想』（岩田書院）『「笑い」の技術—笑いが世界をひらく』（世界思想社）『笑いを生み出す「頓悟」は、子どもにも大人にもよく効く発想の栄養剤！—大正の少年・少女雑誌にあふれる自由なユーモアが、窮屈な現代のセンスをもみほぐす』（博文館新社）、編著書として、森毅「一刀斎、最後の戯言」（平凡社）がある。